

第 37 回 PCV 漏えい試験検討会 議事録

1. 開催日時 2022 年 12 月 16 日（金） 10 時 00 分～11 時 30 分

2. 開催場所 関西電力 東京支社 会議室（Web 会議併用）

3. 出席者（順不同，敬称省略）

出席委員：高田主査(関西電力)，飯村副主査(東京電力 HD)，
井口(発電設備技術検査協会)，今泉(日本原子力研究開発機構)，
今村(日立 GE ニュークリア・エナジー)，岡田（中国電力），小川(北海道電力)，
釜倉(電源開発)，高永(三菱重工業)，高橋(東北電力)，西村(関西電力)，
早坂（日本原子力発電），深井(東芝 ESS)，藤井(北陸電力)，
堀水(原子力安全推進協会)，増田(九州電力)，渡部(四国電力) (計 17 名)

代理出席者：水野(中部電力，福留委員代理) (計 1 名)

欠席委員：なし (計 0 名)

事務局：景浦，佐藤，田邊（日本電気協会） (計 3 名)

4. 配付資料

資料 37-1 原子力規格委員会 構造分科会 PCV 漏えい試験検討会 委員名簿

資料 37-2 第 36 回 PCV 漏えい試験検討会議事録（案）

資料 37-3 JEAC4203-20XX（原子炉格納容器の漏えい率試験規程）改定ニーズ調査表

資料 37-3-1 改定ニーズ調査表 補足説明資料

資料 37-4 JEAC4203-2017 技術評価書（R3.7.21）における要望事項一覧表

資料 37-4-1 要望事項一覧表 補足説明資料

資料 37-5 PCV 漏えい試験検討会 活動スケジュール（案）

資料 37-5-1 各分野の規格策定活動（案）

資料 37-5-2 構造分科会活動計画（案）

5. 議事

事務局より，本会にて，私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後，議事が進められた。

(1) 主査の選任について

事務局から，人事異動に伴う主査退任を受けて，新主査の選任について説明があった。新たな主査については検討会委員の互選により選任となるので，主査候補を募ったところ，委員より高田委員を主査に推薦するとの発言があり，高田委員を主査に選任することについて決議の結果，全員賛成で承認された。また，新主査より副主査の指名については飯村委員のお願いする旨の発言があった。

(2) 代理出席者の承認，オブザーバ等の確認，会議定足数，配布資料の確認について

事務局から，資料 37-1 に基づき下記委員変更の紹介があり，委員候補については，分科会規約第 13 条（検討会）第 4 項に基づき，構造分科会で承認の予定であるとの紹介があった。

その後、代理出席者 1 名の紹介があり、分科会規約第 13 条（検討会）第 7 項に基づき、主査の承認を得た。確認時点で、代理出席者も含めて、委員総数 18 名に対して、出席者は 18 名であり、分科会規約第 13 条（検討会）第 15 項に基づき、会議開催条件の「委員修 2/3 以上の出席（12 名以上）」を満たしていることを確認した。また、事務局より配布資料の確認を実施した。

・委員退任 福留 委員（中部電力）

・委員候補 水野 氏（同左）

(3) 前回議事録の確認

事務局から、資料 37-2 に基づき、前回議事録案を紹介し、正式議事録にすることについて、特にコメントはなく、全員賛成で承認された。

(4) 審議

1) JEAC4203-20XX 改定について

主査及び各担当委員より、資料 37-3 及び資料 37-3-1 に基づいて、JEAC4203-20XX 改定について説明があった。

<資料 37-3 No1>

- ・
- ・ PWR プラントにおける SA 条件での漏えい試験時の確認方法については、過去に NRA とも相談し確認方法が決まっているので、規格に記載する必要がある。
- ・ 一方、BWR プラントの確認方法については、SA 工事後の再稼働が未定であるため、BWR プラントの確認方法が決まり次第、PWR プラント側と合わせて規格に反映する予定。
- ・ パフォーマンススペースの議論については、電中研で米国を参考にした検討がされているので、その検討状況をフォローする。今年度中に一度報告がある予定。

<資料 37-3 No14>

- ・ 「設計圧試験と低圧試験の相関が崩れるような場合」を定量的に表現するのは難しいため、現状の記載のままとし、「不採用」とする。

<資料 37-3 No16>

- ・ PWR プラントで特重用に採用している MI ペネは溶接構造であることから、B 種試験が不要と明確化すべく記載案を説明したが、一部記載が不適切であったことから、記載案を再度検討する。

<資料 37-3 No17>

- ・ 計器精度についてデジタル表記を追加すべく検討しているが、アナログ計器も引き続き使用できるようにアナログ表記とデジタル表記を併記した記載案を検討する。

<資料 37-3 No18>

- ・ 九州電力での検査官指摘については、「C 種実施時に CV 外から加圧する場合の雰囲気温度は CV 外の温度を計測していたが、CV 内の温度を計測する必要はないのか」というものであったが、CV 内外で雰囲気温度に著しい変化はないため不要と PWR 各社で整理している。
- ・ ただし、雰囲気温度の計測箇所については規格に明記されていないため、適正化要否について検討する。

<資料 37-3 No20>

- ・ BWR 側の BC 種試験のクライテリアを明記した方がいいという意見があったが、現状

BWR プラントでは BC 種のニーズがないため、本件は不採用とする

2) JEAC4203-2017 技術評価書 (R3.7.21) における要望事項について

主査及び各担当委員より、資料 37-4 及び資料 37-4-1 に基づいて、JEAC4203-2017 技術評価書 (R3.7.21) における要望事項に対する対応について説明があった。

<資料 37-4 No6>

- ・ 回帰直線については、誤差やばらつきを切片で考慮しているため、現状の記載で問題なく、本件については不採用とする。

<資料 37-4 No11>

- ・ 現状は解説に記載している内容を本文に移行する記載案について、各社にて確認した結果、特段コメントがなかったため、本記載案を規格に反映する。

<資料 37-4 No20>

漏えい試験時の仮設材について、試験後には仮設材を撤去して本設材を復旧する必要があるため、復旧手順を明確化した記載案について説明した結果、特段コメントがなかったため、本記載案を規格に反映する。

3) 2023 年度活動計画について

主査より、資料 37-5-1 および資料 37-5-2 に基づいて、2023 年度の活動計画について説明があった。

(5) その他

- ・ 特になし。

以 上